

# 視 察 報 告 書

- 1 視察年月日  
令和元年10月8日から10月9日まで
  
- 2 視察場所  
令和元年10月8日（火）岐阜県可児市 ①可児駅東土地区画整理事業  
②子育て健康プラザ mano  
9日（水） ” ③予算決算審査委員会  
④議会改革と議会基本条例
  
- 3 視察事項
  - ①可児駅東土地区画整理事業について
    - ・事業概要、経費
    - ・これまでの経過や今後の展開
    - ・事業実施による効果と特色
    - ・地域住民の声
  - ②子育て健康プラザ mano について
    - ・建設概要、経費
    - ・特色（ハード及びソフト）や利用者数
    - ・利用者の声
    - ・施設を利用した今後の事業計画
  - ③予算決算審査委員会について
    - ・以前と現在の予算、決算審査の相違や現委員会の概要
    - ・審査方法
    - ・効果
  - ④議会改革と議会基本条例について
    - ・これまでの改革の概要
    - ・特色
    - ・市民の声
    - ・今後の展開
  
- 4 視察参加者（1名）  
飯島悠介
  
- 5 視察報告  
別紙のとおり

6 視察行程

別紙のとおり

上記のとおり報告します。

なお、提出期限を過ぎての提出となりましたことをお詫びいたします。

取手市議会議長 入江 洋一 殿

令和元年11月11日

取手市議会会派 無党派クラブ 代表者 池 田 慈 ㊞

令和元年 11月 11日

取手市議会会派 無会派クラブ

代表 池田 慈 殿

取手市議会議員 飯島 悠介

### 視察研修報告書

#### 1 視察研修年月日

令和元年 10月 8日 ～ 令和元年 10月 9日

#### 2 視察研修場所及び視察事項

- ・ 岐阜県可児市
  - ①可児駅東土地区画整理事業について
  - ②子育て健康プラザmanoについて
  - ③予算決算審査委員会について
  - ④議会改革と議会基本条例について

#### 3 視察研修報告

今回、会派はやぶさの視察との合同研修にて、岐阜県可児市役所・市議会において二日間にわたり視察研修を行うことができました。

##### ①可児駅東土地区画整理事業について

中心市街地であり、交通機関の結節点である JR 太多線「可児駅」・名鉄広見線「新可児駅」が近接するエリアを、可児市の玄関口にふさわしい整備と拠点づくりを目指し行われた可児駅東土地区画整理事業について視察を行った。

##### ②子育て健康プラザ mano について

「可」能性あふれる「児」どもがそだつまちを目指して、可児市にできた総合的な子育て支援・健康づくり・多世代交流の新たな拠点となる『可児市子育て健康プラザ mano (マーノ)』について視察を行った。

##### ③予算決算審査委員会について

④議会改革と議会基本条例について議会改革について

ローカル・マニフェスト推進連盟によるマニフェスト大賞にて数々の賞を受賞してきた議会改革のトップランナーである可児市議会の取り組みについて元議長の川上文浩氏から議会改革の歩みについてお話を伺った。

## ○可児市について

▽名古屋のベッドタウンとして昭和40年頃から人口増加（3万人程度）を迎えた可児市

- ・人口 10万2,353人
- ・世帯 4万2,693世帯

▽可児市で特に有名なものは次の3つ

- ・世界一のバラ園
- ・美濃桃山陶の聖地
- ・森蘭丸の所縁の地

▽企業誘致・観光振興に取り組んでおり、全国山城サミットを可児市で開催予定（令和元年11月）

## ①可児駅東土地区画整理事業について（建設部 都市整備課

### ▼事業概要

施行者：可児市

施行面積：10.5a

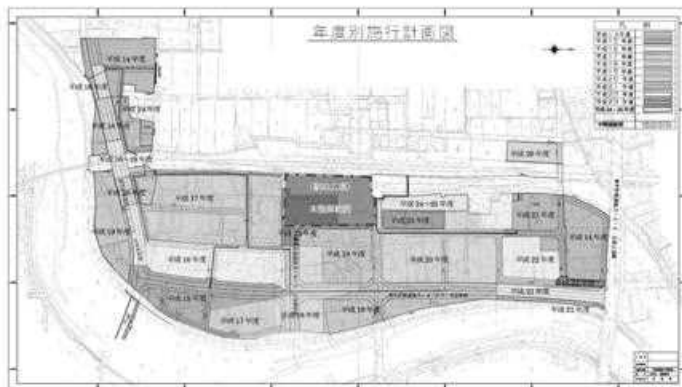
総事業費：90億5,000万円（+8億の自由通路）

（歳入：国費34%・県費3%・市費：残り）

権利者数：210人

当初事業計画認可：平成11年9月28日

仮換地指定：平成14年7月31日



事業試行期間：平成11年度～令和3年度（令和4年3月31日）

減歩率：平均18.46%

#### ▽事業が行われた背景

- ①郊外ににぎわいをとられていた
- ②様々な建物 景観を損ねている
- ③幅4 m以内の狭隘な道路
- ④可児川（1級河川） 計画より低いところに建物
- ⑤交通の結節点という機能がなかった
- ⑥駅前広場としての広さが足りなかった

#### ▽事業が行われた経緯

- ・昭和57年 市街地整備の基本計画検討スタート  
当初は35h（60年以降、まとまりきらず規模縮小）
- ・河川の改修工事が決定
- ・平成4年度 土地区画整備事業による都市基盤整備事業について合意形成がなされた。事業調査スタート
- ・可児駅東まちづくり協議会の勉強会・視察スタート
- ・可児駅周辺まちづくり委員会を立ち上げ、双方の連携によりまちづくりの方向性を探った
- ・平成11年 事業が認可され、区画整理事業をスタート
- ・ふるさとの河・整備事業と同時並行的に事業を行ってきた。
- ・平成14年から本格的な整備事業スタート
- ・平成24年 可児駅前大橋が開通
- ・平成29年 東西自由通路がJRの線路の上に通（以前は地下通路だった）
- ・平成30年 子育て健康プラザmano 開館。商業施設の集積、良好な住居の確保、用途に合わせて地区計画を行った。現在、区画整備に関してはほぼ完成。今後、換地を行っていく。保留地がない。原価保証地区。参加の意思のない地権者から土地の先買い。

#### ▽事業を進めていく中で住民の声が上がってきた。

- ・既成市街地であったため、地権者は2～3年の仮住まいを余儀なくされた。自治会活動を継続したい、住みなれたところを離れたくないという声も
- ・仮換地指定後、区画整理事業をスタート。工事内容が分からないという声。定期的に工事説明会でも説明していたが、コミュニケーションが不足していた。そこで“かわら版”を回覧し、地元のみなさんからも注目される事業になった。
- ・工事業者の協力により、現場説明会・見学会を開催。これからも住み続けて欲しいという意思のもと、(子どもを中心に) ゲーム形式の催し物も開催したところ自然に保護者の方も参加いただく結果に。

▼Q&A

Q 取手駅北口の区画整理事業とは予算の額が1桁程度違う。営業補償費は少なかったのか。

A 営業していた店舗はあったが、もう止めますという方はそこそこの営業補償で済んだ。やりたいという方には貸店舗。元にもどった際に売上は減ってしまったという現象も。

Q 減歩率が低いとその理由は。

A 区画道路は打ってあった。ふるさとの河・整備事業との連携により、整理事業区画から外に行ってもいいという方の土地から先買いできたのが大きかった。

Q 名鉄線・JR線の二つの駅。東西自由通路はJRの負担はなかったのか。

A エレベーターは2機、8億円程度は全て市の予算から捻出。JR東海の業者に委託した。

Q 取手の場合、バリアフリーに関しては国・JR・取手で1/3ずつ。可児市は100%？

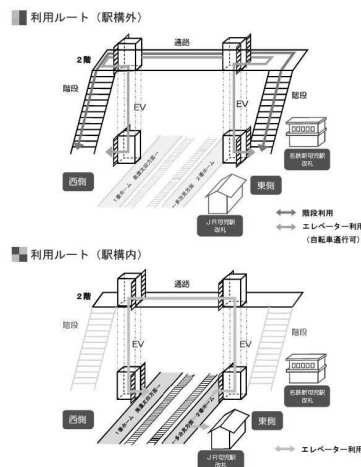
A その補助金とは別。旧・まちづくり交付金でまかなった。名鉄のほうが乗降客が多い。

Q 対象とした子どもというのはどこを対象にしたのか。

A 権利者ということも最初は考えていたが、対象地域の自治会の子どもたちを対象にした。1号公園の貯水槽に入ってもらったりした。大人も含め100人弱が参加。

Q 東西自由通路について

A 昭和30年代はむちゃくちゃ暗い地下通路だった。バブルの時代には橋上・複合施設という話があったが29年度には3千弱の利用者となり、必要最小限な橋上の自由通路に決定。議会には逐次報告して進めてきた。



Q 不参加者の買い上げについても事業予算に？公共用地として買い上げたのか。

A 区画整理事業なので路線価はない。数値化して管理した。

Q 西口との連携・一体性を目的とした事業は行われる予定なのか。

A 昭和時代からの計画はあれど、いつ手をつけられるかは不明という現状。

Q 駅周辺は市街化区域／調整区域なのか。

A 区域については指定せずに今まできている。

Q 公共施設については健康プラザ以外にもあったのか？

A 図書館などいろいろなアイデアがあった。農業関係者の販売スペースなどという案も。

Q 各関係課との連携により進めてきたと思われるが、反省点などあれば。

A 今まで大きな問題はなかったが、今年の冬から仕上げの時期。精算というカタチに入る。厳しいやりとりが想定される。

Q 進行管理はきちんとした？

A 補償関係での調整に手間取り、進捗はかなり遅れた。

#### ▼まとめ・視察を通じて感じたこと

中心市街地の東側地域のみ区画整理事業を行い、東西自由通路に関しても必要最低限な事業を行ってきた経緯を伺いました。また、折り良く河川整備工事が始まり地権者との調整がスムーズにいったこと、土地柄から営業補償費用が少なく済んだことなどにより整備予算が比較的 low で収まった事業であったとのこと。取手の中心市街地の区画整理、再開発事業とは地域の状況や時代も違うが、他の自治体の事例を学ぶことで中心市街地の整理・開発事業の在り方について立体的に物事を視る目が養われたと思います。

## ②子育て健康プラザ **mano** について（子ども健康部 子育て支援課

### ▼施設概要

可児市の子育て支援・健康づくりのための機能がぎゅっと凝縮した施設です。施設内には、可児市役所子育て支援課・こども課・健康増進課、保健センター、親子サロン絆る～む、中央児童センター「にこっと」などの機能が整備されています。（市HPより）

- ・経費：事業費 41 億 5,000 万円 設計管理 9,000 万円 工事費 33 億円 用地 5 億 9,000 万円
- ・平成 26 年度～ 公共用地利活用に係る昨日は一方針を策定  
ワークショップ・ヒアリングを様々な団体と幾度となく行い、施設機能・利用方法についてまとめた。
- ・平成 30 年度 5 月 開館
- ・来場者：別紙参照（来客：市外 3 割程度（以前は 1 割程度））
- ・アンケート：別紙参照
- ・子育て世代の安心づくり：別紙参照（A 3）



可児駅から徒歩 1 分の近さ



県の木材をふんだんに利用した館内



屋上では子どもたちが走り回れるスペースも





# ▼mano概要・設立経緯



可児市子育て健康プラザ mano (マノ) 平成30年8月 第6版

可児市子育て健康プラザ(愛称: mano)は、可児市の重点方針の一つ「子育て世代の安心づくり」の実現に向けた子育ての総合的な支援に加え、市民の健康づくりの推進や、多様な市民の交流の推進を目的とした複合施設です。  
 愛称の「mano」はイタリア語で「手」を意味します。manoでは、市民、地域、行政が「手」を携え、様々な方法で市民サービスを展開し、「可児」に個性あふれる『児』(こ)どもがそだつまち・可児のシンボルとして未来く愛される空間となるよう努めています。

### 施設概要

西棟	敷地面積	3,066.19㎡	建物構造	鉄骨造3階建て
	延床面積	2,469.84㎡	延床面積	5,329.54㎡
	主な機能	1階 中央児童センターにこっと、カフェレストラン「iMakoya(いまこや)」、クッキングスタジオ、健康スタジオ、manoショップ、みんなの書斎、なかのひろば、そとひろば、授乳室 2階 市民支援室(子育て支援課・こども課・健康増進課、相談室他)、市民支援室、研修会議室1・2 3階 保健センター		
東棟	敷地面積	1,873.48㎡	建物構造	鉄骨造3階建て
	延床面積	1,615.21㎡	延床面積	3,659.30㎡
	主な機能	1・2階 自走式立体駐車場 3階 子育てサロン「絆る〜む」、屋上ひろば		
連絡通路	西棟と東棟を結ぶ上通通路 鉄骨造 延床面積・延床面積: 86.40㎡			

### 施設管理運営情報

開館日	平成30年5月6日
開館時間	午前8時30分～午後9時
休館日	毎月第1土曜日、年末年始(12月29日～翌年1月3日)
駐車場・駐輪場	・駐車可能台数: 90台 ・利用可能時間: 午前8時～午後9時30分 ・使用料: 100円/30分 最初の1時間は無料(施設利用者は一定時間無料) ・施設利用者専用駐輪場 専用コインによる固定装置: 32基
各機能の運営方法	・施設全体…直営 ・中央児童センターにこっと…指定管理者制度 ・カフェレストラン、自動販売機、ATM …行政対策の目的外使用(地方自治法第238条) ・クッキングスタジオ、健康スタジオ、市民支援室…事業運営業務委託
その他	敷地内全面禁煙
備考	・近可児駅: 平成28年度年間乗車人数 554,507人(1,519人/日) ・名鉄新可児駅: 平成28年度年間乗車人数 907,753人(2,512人/日) ・駅前ロータリー: 路線バス及び市コミュニティバス発着点

### 可児市子育て健康プラザmano整備経過

時期	内容
H26.3	・可児駅前公共用地利活用に係る機軸配置方針を策定
H26.4~9	・企画設計策定に係る関係団体ヒアリング
H26.7.17~9.4	・企画設計策定に係る市民ワークショップを開催(全3回)し、市民意見を聞き取り
H26.10	・(仮)可児駅前「子育て・健康にぞい空間施設」企画設計書を策定
H26.12.18	・基本設計業務委託審査委員会により、受託候補者を決定
H27.4.21~11.5	・基本設計に関する市民ワークショップを開催(全5回)
H27.8.5~8.25	・基本設計(案)パブリックコメントの実施(提出意見: 12名・30件)
H28.9.28	・施設本体・機械設備・電気設備工事請負契約締結工事請負契約
H28.10.20~H29.2.10	・管理運営に関する市民ワークショップを開催(全3回)
H28.10.21	・工事着手
H29.6.23	・可児市子育て健康プラザの設置及び管理に関する条例(附則にて保健センター設置条例の一部改正) 議決 ・可児市児童館の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例 議決
H29.7.3~19	・プラザ内各機能の民間運営事業者を公募
H29.8.7~9.15	・プラザ全体と中央児童センターの愛称を公募
H29.8.14~9.15	・中央児童センターの指定管理者を公募
H29.8.24	・プラザ内各機能の民間運営事業者の候補者を選定
H29.10.11	・指定管理者選定委員会により中央児童センターの指定管理者の候補者を選定
H29.10.26	・愛称を公募 子育て健康プラザ「mano(マノ)」 中央児童センター「にこっと」
H29.12.21	・市議会にて、中央児童センターの指定管理者を「シダックス大新東ヒューマンサービス株式会社」に決定
H30.3.22	・工事完了
H30.4.28~30	・事務所(子育て支援課・こども課・健康増進課)他移転作業
H30.5.1	・事務所業務開始
H30.5.6	・開館 開館式典、オープニングイベント開催

# ▼来場者実績

## 平成30年度 子育て健康プラザmano 来館者実績

	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
保健センター	1,079	1,016	979	1,045	1,310	1,078	1,254	1,126	1,070	1,039	1,112	12,108
健康スタジオ	126	536	588	323	440	618	726	512	543	647	618	5,677
クッキングスタジオ	91	255	134	315	100	169	240	216	116	164	173	1,973
研修会議室1	149	316	442	1,593	198	364	472	263	257	375	355	4,784
研修会議室2	58	26	21	19	48	116	77	97	55	48	56	621
2階待合室	38	38	33	69	97	75	129	94	86	141	134	934
中央児童センターにこっと	5,286	6,235	7,577	9,523	6,105	5,072	4,506	4,310	3,488	4,228	6,881	63,211
iMakoya	2,285	1,897	1,901	2,421	2,097	2,005	1,818	1,604	1,638	1,952	2,416	22,034
ショップ・書斎・ひろば1階(推計: 50人/日)	1,450	1,450	1,500	1,500	1,400	1,559	1,505	1,646	1,353	1,362	1,718	16,443
市民支援室	1,019	655	605	475	398	496	587	364	389	357	367	5,712
2階ラウンジ(推計: 椅子28脚)	655	870	1,164	1,710	845	900	870	870	870	810	1,000	10,564
絆る〜む	3,903	4,356	3,960	3,905	3,964	4,110	3,571	2,942	2,794	2,980	3,832	40,317
市窓口・その他(推計: 50人/日)	2,726	1,062	1,088	1,176	915	1,347	2,034	965	958	962	1,000	14,233
合計	18,865	18,712	19,992	24,074	17,917	17,909	17,789	15,009	13,617	15,065	19,662	198,611
調整率(駐車券認証データに基づく利用重複率)	0.87283	0.84105	0.81437	0.83513	0.80823	0.77440	0.75173	0.77640	0.78774	0.80688	0.80688	2月以降5~1月の平均値
調整後計	16,466	15,738	16,281	20,105	14,481	13,869	13,373	11,653	10,727	12,156	15,865	160,714
(参考)開館日数	28	29	30	30	28	30	29	27	27	27	30	315
(参考)日平均来館者数	588	543	543	670	517	462	461	432	397	450	529	510
(参考)駐車台数	5,155	5,479	5,778	5,969	5,729	5,693	5,949	4,686	4,566	4,946	6,276	60,226
(参考)満車状況発生日数	4	2	1	4	3	2	3	2	0	1	2	24
(参考)manoショップ売上(F)	249,057	186,915	194,617	260,659	172,163	179,279	191,955	180,154	145,040	233,522	223,933	2,217,284

# ▼アンケート結果

1 実施概要

平成30年12月11日(水)～12月21日(金)の10日間

対象者 中学生以上の来館者

内容 属性、来館頻度、各種施設評価及び満足度について

実施方法 各種紙調査票・担当を通じて、来館者にアンケートを直接配布し、回収し用マッシュアップで回収

配布数 1,000枚

2 集計

回収枚数 525枚 (回収率 52.5%)

性別	回収数	割合
女性	464	88%
男性	56	11%
未回答	5	1%
合計	525	100%

3 分析

回答者の7割が女性であり、その割合が「絆～む」・「中央児童センター」に多い。子どもを連れて来館している。来館頻度は月数回、平日午前中の来館者が多い。

30代女性の回答が多かったことであるが、「親と子の世代」の来館者が多く、可児市の世帯構成の傾向と一致する。本アンケートの男性回答者は全体の11%と少ないが、世代を問わず、健康スタジオ・フットボール場の利用をはじめ、みんなの書斎や図書スペースでゆったり過ごす男性の姿が自然に見られることから、この施設がある程度男性からも支持を得ていると考えられる。

マーンの満足度は、相対的に高く、全体の80%を超える方が「満足」「まあ満足」と回答した。評価の理由としては、「清潔感がある」「施設が充実している」「のんびりできる」「貸出・借出の充実」等、施設そのものを評価する声が多かった。その他特筆すべき事項としては、来館者をむねに施設の「スタッフの対応が良い」と多くの方が評価した点である。特に、絆～むスタッフの対応に対する評価がとても高く、多くの親子に支持されていることが分かる。もう一つの子育て支援拠点である、中央児童センターにこのときのスタッフの対応に対する評価も比較的高い。

アンケートの自由回答欄には、この施設で赤ちゃんから年齢まで色々イベントで楽しんでいる子どもを見ることができて、同じ世代として嬉しい」「お弁当持参でも子どもを遊ばせることができるので子育てのサポートにはとてもうれしい」「夏休み中も、小学生の子どもも施設で遊ぶスペースもあり、利用しやすい」等、施設及びその運営に対して積極的なコメントが多くみられる。駐車場の料金やマーン近隣に商業施設がない等の要望もあるが、マーンについて来館者の評価は概して高く、関心を持って、継続的に運営されていることの裏と認められる。

## 可児市子育て健康プラザ マーン アンケート集計結果

1 あなたの性別・年代、お住まいの地区・家族構成を教えてください。

- ・来館者は、30代の女性が圧倒的に多く、次いで20代女性が多い。
- ・男性の来館者については、10代に次いで30代の利用者が多い。

年代と性別

※女性・男性 (単位:人)

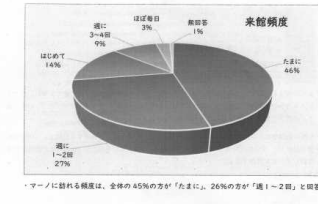
居住地

単位:人

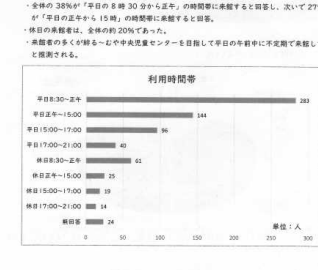
家族構成

単位:人

## 2 マーンに訪れる頻度を教えてください。



## 3 マーンに多く訪れる時間帯を教えてください。



## 4 よく利用する施設の施設を教えてください。

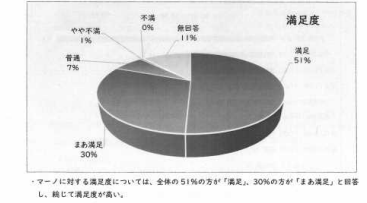
順位	施設名	回答数
1	絆～む	281
2	中央児童センターにこっこ	199
3	ファミリーレストランいまこや	79
4	図書室	69
5	健康スタジオ	44

よく利用する施設として最も回答が多かったのは、絆～む、次いで中央児童センター、カフェレストランいまこや、図書室、健康スタジオの順になっており、「子育て健康プラザ」の名の通り、子育てと健康づくりを目的とした利用がなされていると考えられる。

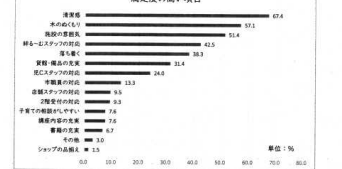
男性の来館者は、10代に次いで30代の利用者が多く、両者、よく利用する施設として「中央児童センター」、次いで「絆～む」と回答しており、中高生及び子連れの30代男性が比較的多く来館していると推測できる。

性別	施設名	回答数
女性	中央児童センターにこっこ	17
男性	絆～む	9
未回答	図書室	9
未回答	みんなの書斎	7
未回答	ファミリーレストランいまこや	7

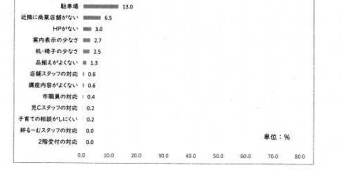
## 5 マーンに対する満足度を教えてください。



## 満足度の高い項目



## 満足度の低い項目



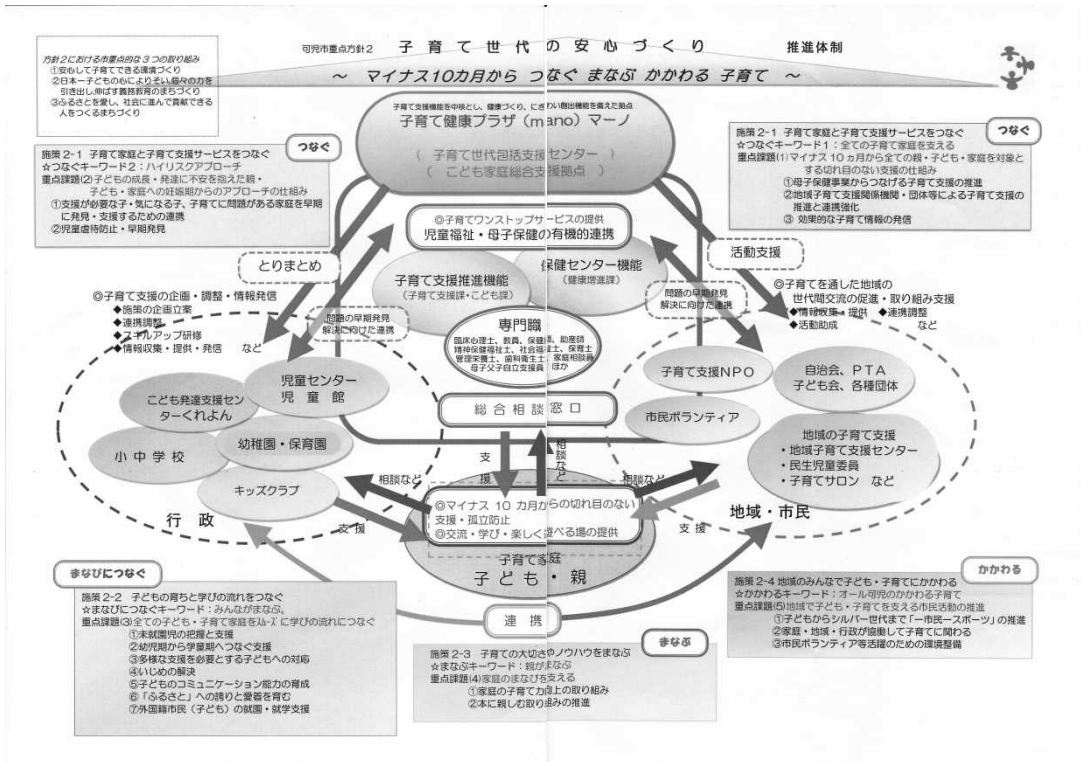
評価の理由としては、全体の67.4%の方が「清潔感がある」と回答し、次いで「のんびりできる」「施設が充実している」と回答した。

建物に関するコメント以外で最も多かった評価の理由が、「絆～むスタッフの対応」であり、全体の42%の方が評価の理由として選択した。

施設内のスタッフの対応については、全体の約10%の方が「絆～むスタッフの対応が良い」と評価を寄せている。

満足度の低い理由で一番多かったものが「駐車場」であり、次いで「近隣施設に商業施設がない」であった。

▼子育て世代の安心づくり（子育て政策方針・実行体制）



▼Q&A

- Q 予算について：建設費用 41 億 5,000 万円の内訳について
- A 国 1 億 4,000 万円、県 5 億 2,000 万円・市 36 億 6,000 万円（合併特例債を中心に）
- Q 管理方法とシダックスの指定管理料
- A 4 つの施設のうち管理を委託しているのは中央児童センターにこっとのみ 1,800 万円。現時点では他の施設も市が管理してノウハウを蓄積しているとこる。
- Q 木のぬくもりをすごく感じるが、管理上の難しさはあるか。
- A テーブル・イスが重い。ワックスを 3 回塗ってあり傷には強い。
- Q アンケート結果における不満足項目の対応について。
- A 市営の有料駐車場は初めてであり、立体駐車場に戸惑いもあった。レストランの趣向を変えて高校生にも利用してもらえるように改善した。
- Q 地域との交流はどのように行っているのか。
- A 運営サポートのためのボランティア養成を行っている。

Q 高校生の勉強スペースはどのように確保しているのか。

A 会議室の貸し出しを行い、勉強できるスペース兼、子どもたちの居場所に開放している。

Q 整備計画の中でのワークショップとは？

A 計画策定のための市の方針説明、意見交換のためのもの。公募したものあり、関係団体とのワークショップあり。

Q 管理運営のワークショップのメンバーは？

A 一部メンバーチェンジを行った。開館時間について、ボランティア制度などについて話し合いを行った。

#### ▼まとめ・視察を通じて感じたこと

大きな市の予算を投じて、交通の結節点である駅前に子育て支援関係施設を一堂に集めた **mano** を建設することで、可児市が大事にしていることが明確に市民に伝わると同時に利用者にとっても必要なものが利便性のいい場所にでき、市民にとっても大事に利用されている施設だということが担当職員の話や各種資料などからも伝わってきました。

また、施設を建設する2年程前から市民・関係団体を巻き込み、どんな施設にするのか、利用方法はどうか、運営についてはと、度重なる対話を重ねてきたことは取手市の新規事業にはない丁寧な取り組みがうかがえたのと同時に、市民にとって本当に喜ばれる市の施設となっていることにつながっていることがうかがえました。

今後の取手市の取り組みにおいても、重点事業における市民との対話や、予算の組み立てなどについて大変参考になる取り組みであり、今後の市政運営にしっかりと活かしていきたいと感じました。

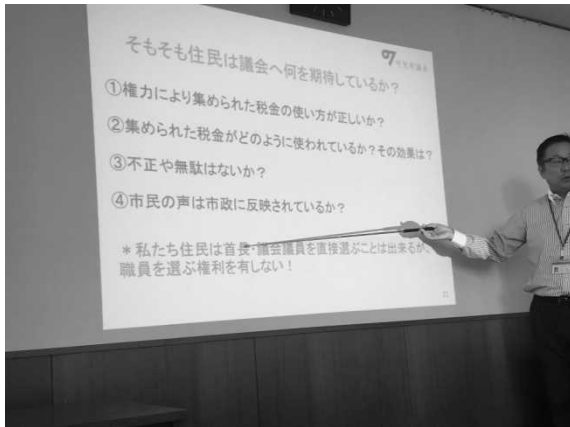


### ③議会改革について

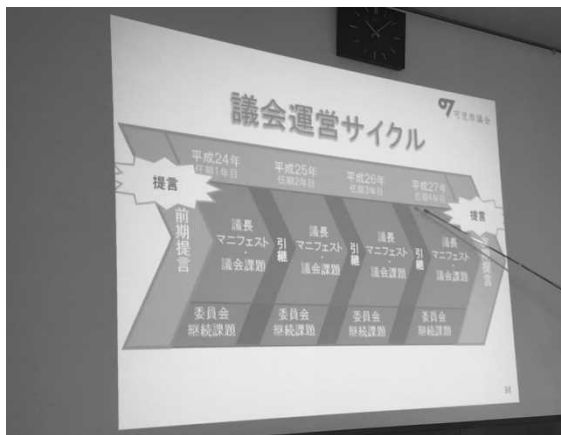
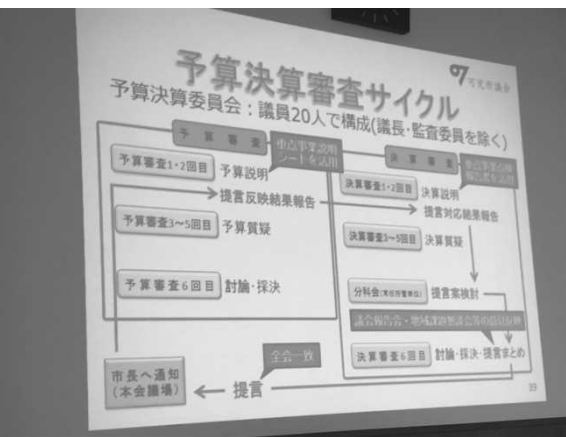
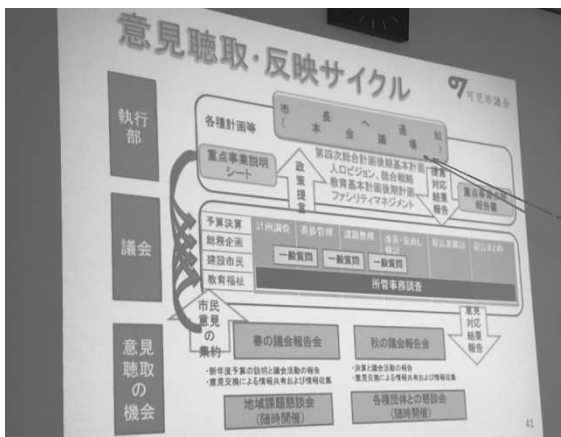
マニフェスト大賞にてグランプリをはじめ、各種受賞してきた名実ともに議会改革のトップランナーである可児市議会の議会改革の歩みと、その裏側にある哲学・苦労話などを伺った。



- ・可児市議会が大事にしていること：“未来への挑戦” 未来の子どもたちに明るい時代を遺すために。
- ・外部環境として、愛知より3割低い住宅価格ということで定住人口が増えてきている。人口減少による労働力の圧倒的な不足が起きている。外国人労働者を入れていく一方、地方に人を育てていくこともしなくてはならない。  
生産年齢人口の減少 1.5万人減 IT化・AI対応  
☞可児市にある、たくさんの子育て政策を機能させていく
- ・議会が大事にする価値観：アイデア・インスピレーション・アクティビティ・コミュニケーション・インプルメンテーション・レギュレーション
- ・書いてあることをやっていかないと止めてしまうのが議会なのでレギュレーションは大事。
- ・先例申し合わせについて：新人議員と見直しをおこなって不要なものを無くした。

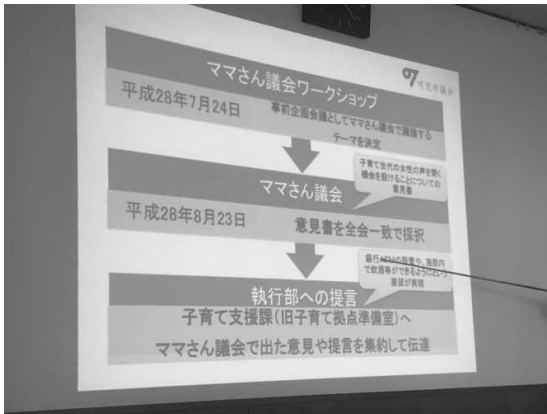


- ・そもそも住民は議会へ何を期待しているか？我々は権力者の一人
- ・職員は選ばれて入ったのではないのだから疑ってかかれという考え方
- ・地方議会は中途半端な機関（予算編成・執行権もない）
- ・不要になった事業・時代に合わなくなった事業は止める時代
- ・二元代表制は車の両輪ではダメ（自動車学校の教官のように横で一緒に運転する存在）



- ・議員は代理でなく代表（言ったけどダメでした＝代理）。
- ・市長は独任性のトップ。

- ・議長・副議長だけではなく、各委員長も立候補による選出を行うことに。
- ・議会改革のためのアンケートも実施。
- ・決算審査にINGの事業の中間報告を執行部に行わせている。
- ・提言に対しては全会一致で市長に提出（できなければ特別多数決でもいいと考える）。
- ・全体の市民福祉を上げていくためには公開で（会派ごとに市長に要求はダメ）。
- ・意見聴取・反映サイクル。一般質問のテーマを所管事務調査に引き上げ、委員会にて取り組むという仕組み。市にとって重要な事案は所管事務調査として委員会毎に調査・審議を行う。（常任委員長が所管事務に決定。）場合によっては継続審査にするという判断も。委員会の視察は公務。執行部と同行して。
- ・予算審査：質問を通告制にして事前に調整したところ250問中80問程度の削減を行えた。



外国人ママさんへの情報発信⇒外国語版パンフレットの作成  
マーノ、フレビア、アールとの連携⇒それぞれの講座を通して交流  
をし、アールで演劇やダンス等発表

可児川など自然を生かした課外授業⇒パパやおじいさん家族  
NPOや地域の協力。  
(具体例として、パパや家族、地域の協力で課外活動を行い、  
その間ママたちはクッキングスタジオで「素敵なお弁当作り講座」  
に参加し、そのお弁当をお昼にみんなで食べる)

情報発信を向上させる⇒子育て世代と行政が一丸になって情報  
発信の方法を考える場を作り、アプリの新規作成や世代別  
の発信など話し合える機会を増やす

委員会代表質問

- ・ 総務企画委員会  
平成29年第4回定例会  
「災害時の情報発信及び災害  
対策本部の体制について」
- ・ 建設市民委員会  
平成29年第4回定例会  
「汚染土壌処理施設への対応  
について」

↓

メール配信サービスのHPでの確  
認が可能に  
FMらら(コミュニティFM)の割込  
放送  
エリアメールの開始

↓

トラックごと放射線を計測する  
ゲートの設置  
従業員のポケット線量計の携帯

平成24年予算特別委員会附帯決議  
(3月定例会予算審査)

- ・ いじめ防止第三者機関運営経費について、この  
第三者機関は特に取扱いに配慮が必要な個人情報  
(センシティブ情報)を取り扱うことから、可児市い  
じめ防止第三者機関検討委員会からの提言書にも  
ある通り、当該機関の施策の推進体制や権限等を  
根拠づける条例・規則を早急に整備すること。また、  
第三者機関という位置づけであるメリットを如何なく  
発揮するためにも、関係機関との連携について事  
前に十分調整されたうえで事業実施されたい。

各地での防災訓練の様子①

各地での防災訓練の様子②

各地での防災訓練の様子③

各地での防災訓練の様子④

各地での防災訓練の様子⑤

議員は災害時には災害情報を携帯・  
タブレット端末などを活用し、災害現  
場の写真などを議会事務局に報告し  
ます。  
(写真は訓練なので、各地の防災訓  
練の様子を報告)



- ・日本で初めていじめ防止条例を制定。議会からの提言により策定作業がスタート。
- ・委員会代表質問は執行部に強いメッセージ。
- ・熊本地震から得た教訓を市民に。(視察結果の報告を全議員に行った。)
- ・学校給食会を参考人招致したこともあった。
- ・子ども議会を開催。大人×若い世代 可児市の魅力を知る場。地域への愛着や当事者意識の醸成を目的に広い視野や新しい経験の獲得。社会や学問のつながりの実感など。
- ☞ふるさと発展に寄与する人材育成 = 地域課題解決型キャリア教育につなげている。議会で手が回らないのでNPOつくらせた。
- ・小学生でも行政運営に関わることについて、自分たちで話し合って決められるという経験を重ねていくことで、主体性をもって地域に向き合う姿勢が養えているとのこと。
- ・高校出たら地元で就職したい、ただ、3年経ったら海外留学に行きたいという声。育児休暇なども地元企業にはない。
- ☞地域で就職する際に、地域企業には福利厚生(海外留学・育児休暇制度など)の充実を訴えている。



・若い世代の投票率向上のため、高校生と議会事務局と選挙管理委員会で模擬投票を実施。本物のポスター掲示板を2箇所を立て、実際のポスターも作成して模擬投票を行う。野球部の遠征が投票日に重なり、期日前投票を実施した。

## ▼Q&A

Q 予算決算を常設化。議長と監査役以外、全議員にて審査をしている。どのようなボリュームでやっているのか。

A 重点事業シートを踏まえ、事業の説明を執行部から全議員を対象に全協室で行ってもらおう。補正予算も対象。説明を受けて質疑を抽出して審議を深めている。

Q 予算決算審査を委員会毎に行っている。その成果は。

A 専門分野に対して審議することで審議が深まった。質疑の後、委員会毎に提言をまとめる。臨時財政対策債についてみっちり審議をやったこともある。

Q 予算決算審査を全議員で行うということに対して反対意見はあったか。

A 無かった。順番にやってきているので。議案を分割するのは何センスということで分割負託を無くして予算・決算を常任委員会化して進めてきた。決算審査の場合、議選の監査委員会が議会に審査ポイントを説明している。

Q 一般質問のテーマを各委員会の所管事務調査として取り上げるということに対して、どこの会派（政党）の議員のテーマも取り上げるのか。

A 取り上げる。22人の議員を色分けしない。現在は共産党が議運の委員長。

Q 地域型懇談会の実施を議会基本条例にて規定しているが。

A 議会報告会と地域型懇談会が被っているので一緒に開催している。大学誘致に成功した。専門学校が千人規模の大学に。団地が高齢化しているという課題を、学生と地域の間を議会がコーディネートして懇談を深めている。

Q 議会改革が一気に進んだのは、若い議員が入ってきて進んだという話を聞いたが。

A 真ん中がいなくなり、若手と古参が残った。議会改革に賛同してもらえ人が議長になり進んでいったという経緯。

Q 最大会派の切り崩しなどはあるのか。

A 会派が細かくバラバラになったのは良かった。二元代表は是々非々だから。ぶら下げるアメもなくなってきた。10年後、20年後のFM（ファシリティマネジメント）はめっちゃくちゃ大変という状況。修正議案は市長・職員はいやがるけれど、議会の意見を言うときは言う。

Q 意見聴取・反映サイクルについて 議案以外にも大事なテーマについて議

会として取り組むということだが、どのように行っているのか？

A 担当委員会の所管事務調査として取り組む。常任委員長が所管事務調査に認定できる権利を有する。担当課と一緒に視察に行ったり、国・県に意見を一緒に提出するという取り組みにもつながった。委員会として動いていくことが大事。(公務として)

Q (上記に続き) 実際に所管事務調査として取り組んだことは？

A 可児市経営計画が出されたときに、経営計画会議をつくり全議員で対応して付帯決議を出した。

Q キャリア教育について、もう少し具体的に説明を願う。

A 有権者の言うことは聞くけど、主権者の言うことは聞いているのかという自問からスタート。選挙権のない高校生の声を聞いた。何故若い人がこれだけ流出するのか。

工業高校では8割が就職。6割が地元を志向しているが、実際は14%しか就職できていない。学校に任せていたら無理がある。教育の現場でできないのであれば議会が。大人と子どもの接点ということを議会が本気でやったら向こうも応えてくれる。

管理栄養士になるために大学に行くけど、帰ってきたら働く施設がないという声も。

Q 議会ではキャリア教育に手が回らなくなったので、NPOを立ち上げてというお話をもう少し。

A NPO縁塾を立ち上げ、市民が主導で学校と地域をつなぐという活動を行ってもらっている。学校を卒業したOB・OGがサポートしてくれている。

Q 委員会の代表質問の効果は？

A 予算決算で提言を、議会の全会一致で提言する。ということは議決の重みがある。議会としての質問ということで、執行部にも重みが伝わり対応が丁寧になるなど、一つのやり方として有効であると考えている。

Q 議員が入れ替わる中で、モチベーションを継続していく方策は？

A 波はあるけれど、一年に一回副議長の交代などのタイミングに議運を通して申し送り事項を書いて引継をする。ミッションが議決されているので取りまざるを得ない。

Q 予算決算審査委員会は、実質的に何日ぐらいかけて審査する？

A 説明に2日間・質疑に3日間、分科会3日間・最終的なまとめの1日。計9日間。3・9月の議会の開催は41日間。

Q 予算決算をつくろうとしている。どんなカタチにするべきか。

A 少人数でやるという話もあったが、全体で見るためには広く浅く、議長・監査を抜かした全員でやろうという話でまとまった。不用額も全部説明させている。

Q 一般質問では全体で話を進めることと、各議員の役割をどのように考えるか。

A 選挙に受からなければ仕事ができないので、自分の手柄は自分で確保しなければならない。その上で全体の市民福祉を上げるための政策・施策を行っていかなければならない。財源がなくなる。右肩下がりの時代だが、過去の財政運営を見てきた議員（83歳）もいらっしゃり議会の審査の質を高めている。

Q 予算決算の質問を制限するのは信頼関係などがなければできないこと。

A ただの数字の確認などの質疑をすると時間ももたない（議員にとっても、職員にとっても）ので、委員長もめくら判を押す（なんでもかんでも質問を通してしまう）と、まわりから怒られる。

Q 請願・陳情がゼロというのは取手とは違った状況。

A 市民からの意見として請願・陳情を大事にするのは大前提だが、上がって来ないのが現状。自治会組織（連合）からは意見がどっさり。本来、請願・陳情をしっかりと審議することで市民の声に答えられたら、ここまで地域に出ていく必要はなかったかもしれない。

Q 議会事務局について。

A 委員会視察には同行して、一緒に先進事例を学んだり、先方の事務局と交流するのも大事。議会事務局長経験者を議会事務局に再任用で採用した。（総務部長など優秀な人材を再任用で議会がとるのも有効。）

▼まとめ・視察を通じて感じたこと

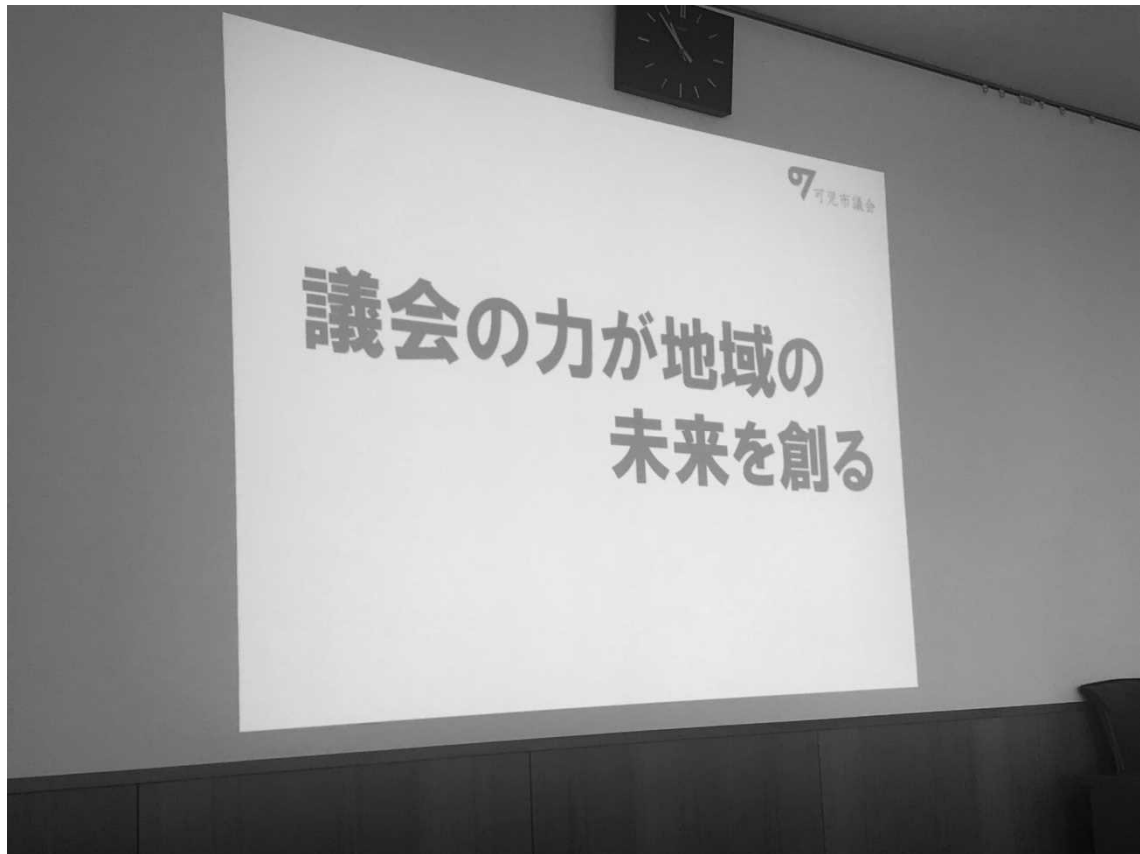
議会改革の先進地として地域に求められる議会の在り方について、経緯だけではなく、その裏側にある哲学や手法も含め大変勉強になりました。

議会と執行部の関係、議会が守備的にしか動くのではなく、市政運営に関する大事なテーマは先行して議会から調査・審議していく姿勢は大変素晴らしい

ものであり、地域の課題は自分たちで解決していくという哲学が議会運営にしっかりと反映されていることを感じました。

元議長の川上さんが仰られていた“議会の力が地域の未来を創る”という自負を、全議員が持てるように微力ながら飯島も行動していければと思いました。

**地域の未来は自分たちでつくりましょう！**



上記のとおり報告します。

## 茨城県取手市議会会派「無党派クラブ」行政視察研修行程表

○10月8日（火）

藤代駅\_\_\_\_\_東京駅 のぞみ 19 名古屋駅\_\_\_\_\_名鉄名古屋駅\_\_\_\_\_新可児駅  
(昼食)

7:28 発 8:20 8:40 10:19 10:30 10:41 11:40

\_\_可児市子育て健康プラザ mano 視察 (徒歩) ホテル

13:30~16:00

16:30 着予定

### 【宿泊先】

ルートイン可児

住所：可児市広見5-130-2

電話：0574-63-1323

○10月9日（水）

ホテル (徒歩) 可児市視察\_\_\_\_\_新可児駅\_\_\_\_\_犬山駅\_\_\_\_\_名鉄名古屋駅\_\_

9:10 9:30~11:30 13:44 14:04 14:07 14:32

\_\_名古屋駅 (のぞみ 26) 東京駅\_\_\_\_\_藤代駅

14:57

16:33 17:04

17:56 着予定

・岐阜県可児市議会事務局

住所：岐阜県可児市広美1-1 (〒509-0214)

電話：0574-62-1111 (代表)